

1

親学アドバイザーの3つの役割

親学アドバイザーは、親学の実践者でなければなりません。自ら実践し、改めるべきは改め、変わっていくことができなければ、他人に影響を与えることはできないでしょう。

親学の実践のすばらしさを、まずはみなさん自身が感じることが大切です。親学は机上の学びではありません。体験によって裏打ちされたものであり、人間と人間の「つながり方」の学びです。だからこそ、みなさんが親学の実践者であることがなにより必要なのです。

(1) 親学アドバイザーは親学の伝達者

どこの教育機関でも教えていないものが、親になるための学び、親としての学びである「親学」です。親学アドバイザーには、この親学を多くの人に伝達する役割が与えられています。本書の第2章には、親学勉強会について詳しく書いてありますが、親学を学ぶ人自身が親学を日々実践すると同時に、親学を広めていく人になっていくことを通して、さらに親学が普及することを私たちは目指しています。

実践が伝達につながり、人材育成につながり、多くの人に親学が浸透したとき、きっと「親が変わり、子どもが変わる」世界が実現するはずです。

(2) 親学の知識を子どもたちへも伝達

多くの子どもは、やがて親になります。脳科学の成果にもとづく育児方法、規則正しい生活習慣、親心などについて、子ども時代にあらかじめ学んでおくことで、やがて親になったときに実践できるようになります。親学は、確かに親のためのものです。しかしそれは、決してすでに親である人たちだけを対象にしているわけではなく、これから親になる人たちのためもあるのです。